

三菱電機冷蔵庫冷却システム 低温共通リモコン

共通

形名
RB-4DG

据付工事説明書

販売店・工事店様用

このたびは三菱電機製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

- ご使用の前に、この据付工事説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。この据付工事説明書は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管し、必要なときお読みください。
- 「据付工事説明書」は大切に保管してください。
- 添付別紙の「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口のご案内」は大切に保管してください。
- お客様ご自身では、据付けないでください。（安全や機能の確保ができません。）
- この製品は、日本国内用に設計されていますので、国外では使用できません。また、アフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and the contents in this document cannot be applied in any other country. No servicing is available outside of Japan.

もくじ

安全のために必ず守ること	3	9. サービスメニュー	40
1. 各部のなまえ	10	10. 試運転	44
2. 使用部品	11	10-1. 試運転の準備	44
2-1. 同梱部品	11	10-2. 試運転の方法	44
2-2. 別売部品	12	11. 修理を依頼する前に	45
2-3. 一般市販部品	12	11-1. リモコン診断	45
2-4. 製品の運搬と開梱	13	12. お客様への説明	48
3. 伝送線配線	14	13. 法令関連の表示	49
4. 使用箇所（据付工事の概要）	17	13-1. 日常の保守	49
4-1. 使用部品の取付位置	17	13-2. 点検時の交換部品と保有期間	49
4-2. 従来工事との相違	17		
4-3. 一般市販部品の仕様	18		
5. 据付場所の選定	19		
5-1. 法規制・条例の遵守事項	20		
5-2. 公害・環境への配慮事項	20		
5-3. 製品の機能性能を発揮するための事項	21		
5-4. 保守・点検に関する事項	21		
6. 据付工事・電気工事	22		
6-1. 建物の工事進行度と施工内容	23		
6-2. 届出・報告事項	23		
6-3. 据付と電気工事をする	24		
6-4. サービス	32		
7. 据付工事後の確認	33		
7-1. 据付工事のチェックリスト	33		
7-2. 保護シートの取り外し	33		
8. 設定値変更	34		

安全のために必ず守ること

- ◆この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、据付けてください。
- ◆ここに記載した注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ずお守りください。



警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度



注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

- ◆図記号の意味は次のとおりです。



(一般禁止)



(水ぬれ禁止)



(ぬれ手禁止)



(発火注意)



(感電注意)



(一般指示)

- ◆お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ◆お使いになる方は、本書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。



警告

電気配線工事は「第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）」の資格のある者が行うこと。

一般事項

警告

油・蒸気・有機溶剤・腐食ガスの多いところ、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーを頻繁に使用するところにコントローラを据え付けないこと。

- ◆電気部品腐食による感電・性能低下・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

改造はしないこと。

- ◆けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

コントローラを水・液体で洗わないこと。

- ◆ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

注意

先のとがった物で表示部・スイッチ・ボタンを押さないこと。

- ◆感電・故障のおそれあり。



使用禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ◆感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

異常時（こげ臭いなど）は、運転を停止して電源スイッチを切ること。

- ◆お買い上げの販売店・お客様相談窓口にご連絡すること。
- ◆異常のまま運転を続けた場合、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

コントローラのカバーを取り付けること。

- ◆ほこり・水が入ると、感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

据付工事をするときに

⚠ 警告

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏えいのおそれがあるところにコントローラを設置しないこと。

- ◆可燃性ガスがコントローラの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。



据付禁止

梱包材は破棄すること。

- ◆窒息事故のおそれあり。



指示を実行

コントローラの質量に耐えられるところに据え付けること。

- ◆コントローラの落下によるけがのおそれあり。



指示を実行

⚠ 注意

コントローラは水のかかるところや高湿度で結露するところには据え付けないこと。

- ◆ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ禁止

配線はフックにはめた後、端子台に固定すること。

- ◆固定していない場合、露・水滴がコントローラ内部に入ると、機器を損傷・故障し、漏電・感電のおそれあり。



感電注意

コントローラの据付けは、販売店または専門業者が据付工事説明書に従って行うこと。

- ◆感電・火災のおそれあり。



指示を実行

"パチッ"と音がするまではめ込むこと。

- ◆はまっていない場合、製品が落下し、けが・損傷・故障のおそれあり。



指示を実行

電気工事をするときに

⚠ 警告

電源配線は信号端子台に接続しないこと。

- ◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

⚠ 注意

コントローラの内部に配線の切くずが入らないようにすること。

- ◆ ショート・感電・故障のおそれあり。



感電注意

電気工事は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

配線引込口をパテでシールすること。

- ◆ 露・水・虫が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

移設・修理をするときに

警告

コントローラの分解・改造はしないこと。移設・修理は販売店または専門業者に依頼すること。

◆けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

お願い

コントローラを病院・通信・放送設備がある所に据え付ける場合は、ノイズ対策を行ってください。

- ◆ ノイズにより医療機器に悪影響を与え、医療行為を妨げるおそれあり。
- ◆ ノイズにより映像放送の乱れ・雑音が生じるおそれあり。
- ◆ インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響によるコントローラの故障・誤動作のおそれあり。

コントローラ設置壁面の表面付近の温度と実際の室温との差が大きい場所に据付けしないでください。

- ◆ 検知した室温と実際の室温を誤検知するおそれあり。

コントローラを導電性があるところ（塗装をしていない金属面など）に据え付けしないでください。

- ◆ 故障・誤動作のおそれあり。

直射日光のあたる場所、または周囲温度が40℃以上・0℃以下になる場所にコントローラを据付けしないでください。

- ◆ 変形・故障のおそれあり。

コントローラのケースに追加穴を開けしないでください。

- ◆ 損傷するおそれあり。

コントローラのケースから基板保護シート・基板は取り外さないでください。

- ◆ 故障のおそれあり。

コントローラのコネクター接続後、ケースをぶら下げないでください。

- ◆ 断線し、動作に支障をきたすおそれあり。

コントローラの配線を端子台に接続する際に、圧着端子を使用しないでください。

- ◆ 基板と接触し故障のおそれあり。
- ◆ カバーと接触しカバー損傷のおそれあり。

コントローラの配線はクランプにはめて固定してください。

- ◆ 固定していない場合、端子台に直接力が加わり断線のおそれあり。
- ◆ 上ケースがはめ込めないおそれあり。

ネジを締めすぎないでください。

- ◆ 損傷するおそれあり。

マイナスドライバーをコントローラのツメに強く差し込まないでください。

- ◆ 基板が損傷するおそれあり。

マイナスドライバーをコントローラのツメにはめ込んだ状態で強く回転させないでください。

- ◆ ケースが損傷するおそれあり。

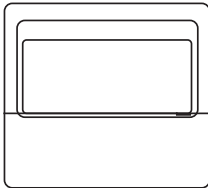
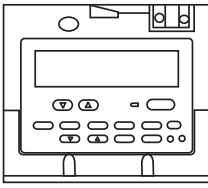
1. 各部のなまえ

接続して使用する取扱説明書を参照してください。

2. 使用部品

2-1. 同梱部品

箱の中には、この説明書の他に次の部品が入っていますので確認してください。

No.	品名	個数 (個)	外観	備考
1	リモコン	1		カバー
				本体
2	十字穴付きナベねじ M4 × 30	2	—	
3	木ねじ M4.1 × 25	2	—	壁に直接据付ける場合

2-2. 別売部品

以下の部品は、三菱電機指定の純正部品を使用してください。

No.	品名	形名	個数 (個)	備考
1	リモコンケーブル	PAC-YT81HC	どちらか 1	10 m
		PAC-YT82HC		20 m

2-3. 一般市販部品

下記の部品は現地にて調達してください。

品名	仕様	所要量	備考	
スイッチボックス	2 個用 (JIS C8340)	1	壁面に直接据付ける場合は不要です。	
薄鋼電線管	(JIS C8305)	必要量		
ロックナット、ブッシング	(JIS C8330)	必要量		
モール	(JIS C8425)	必要量	リモコンケーブルを壁面に這わす場合に必要です。	
パテ		適量		
モリーアンカー		必要量		
リモコンケーブル	種類	CVV, CVS, VVR, VVF, VCT	必要量	以下の別売ケーブルも使用できます。 PAC-YT81HC(10m), PAC-YT82HC(20m)
	線数	2 心ケーブル		
	線径	0.3 ~ 1.25mm ² (※ 1)		

(※ 1) 作業上、0.75mm² までの線径を推奨します。

2-4. 製品の運搬と開梱

2-4-1. 製品の運搬

できるだけ水平に保ち静かに運搬してください。

2-4-2. 製品の開梱



梱包材は破棄すること。

◆ 窒息事故のおそれあり。



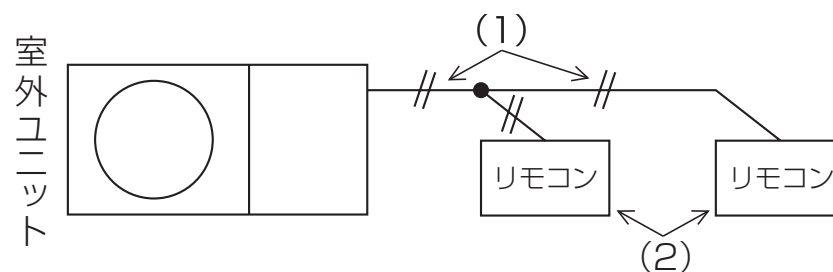
指示を実行

3. 伝送線配線

リモコンの配線はシステム構成によって異なりますので、詳細はユニットコントローラの工事説明書を参照してください。

[1] (スプリット形) クーリングユニットのリモコンとして使用する場合

図中 (1) (2) は以下説明文 (1) (2) と対応していますので確認してください。



(1) リモコンの配線

- ① リモコンケーブルは本体ユニット（室外ユニット）に 10m 分付属し接続しています。（極性はありません）
- ② 10m を超える場合、合計最大 250m まで延長可能です。1.25mm²2 心ケーブルを現地にて調達し、継ぎ足してください。
- ③ 配線の分岐はケーブルに直接端子台などを接続して行ってください。（室外ユニットにリモコン端子台はありません）
- ④ リモコン線は動力線にそわせないでください。（専用配線口を通して接続してください。）
動力線にそわせると、温度表示がチラついたり、誤動作する場合があります。
- ⑤ リモコンの配線はノイズによる電子回路の誤動作を防止するため、主回路配線や他の機器の配線と同一電線管内に入れたり、そわせたりせず、独立して配線してください。

(2) リモコン接続台数

2 台まで接続できます。3 台以上の接続はできません。

※ 2016 年 4 月発売以降の RB-4DG とのみ同時接続できます。

それ以外の機種とは同時接続できません。

[2] スタンダード (STD)・クオリティ (Q)・デラックス (DX)・ハイクオリティ (HiQ) システムのリモコンとして使用する場合

図中 (1) (2) は以下説明文 (1) (2) と対応していますので確認してください。

(1) リモコンの配線

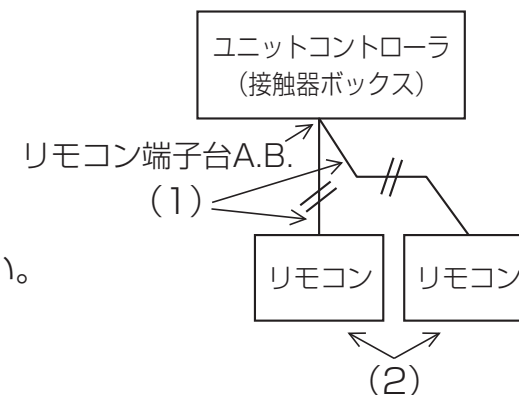
- ① ユニットコントローラのリモコン端子台 A.B. へ接続します。(極性はありません)
- ② 合計最大 250m まで延長可能です。
 - ・ 10m 以内の場合は 0.3 ~ 1.25mm² 心ケーブルを現地にて調達してください。
 - ・ 10m を超える場合は 1.25mm² 心ケーブルを現地にて調達してください。
- ③ 配線の分岐はユニットコントローラのリモコン端子台で行ってください。

(2) リモコン接続台数

2 台まで接続できます。3 台以上は接続できません。

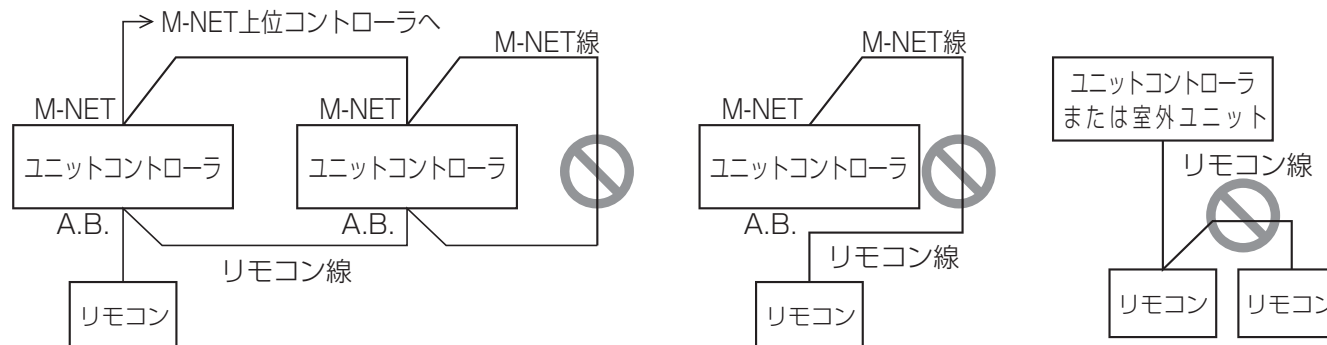
※ 2016 年 4 月発売以降の RB-4DG とのみ同時接続できます。

それ以外の機種とは同時接続できません。



[3] クォリティ (Q)・デラックス (DX)・ハイクォリティ (HiQ) システムのリモコンとして使用する 場合

- ⚠ 注意**
- M-NET 線とリモコン線の接続は禁止です。接続をした場合、ユニットコントローラ、リモコンの故障の原因となります。
 - M-NET 線に低温共通リモコンを接続しないでください。リモコン破壊の原因となります。
 - リモコンどうしでの渡り配線は禁止です。リモコン端子台には配線 1 本しか接続できません。
 - ユニットコントローラに渡り配線する場合の端子台には、同じサイズの配線を 2 本までとしてください。



4. 使用箇所（据付工事の概要）

4-1. 使用部品の取付位置

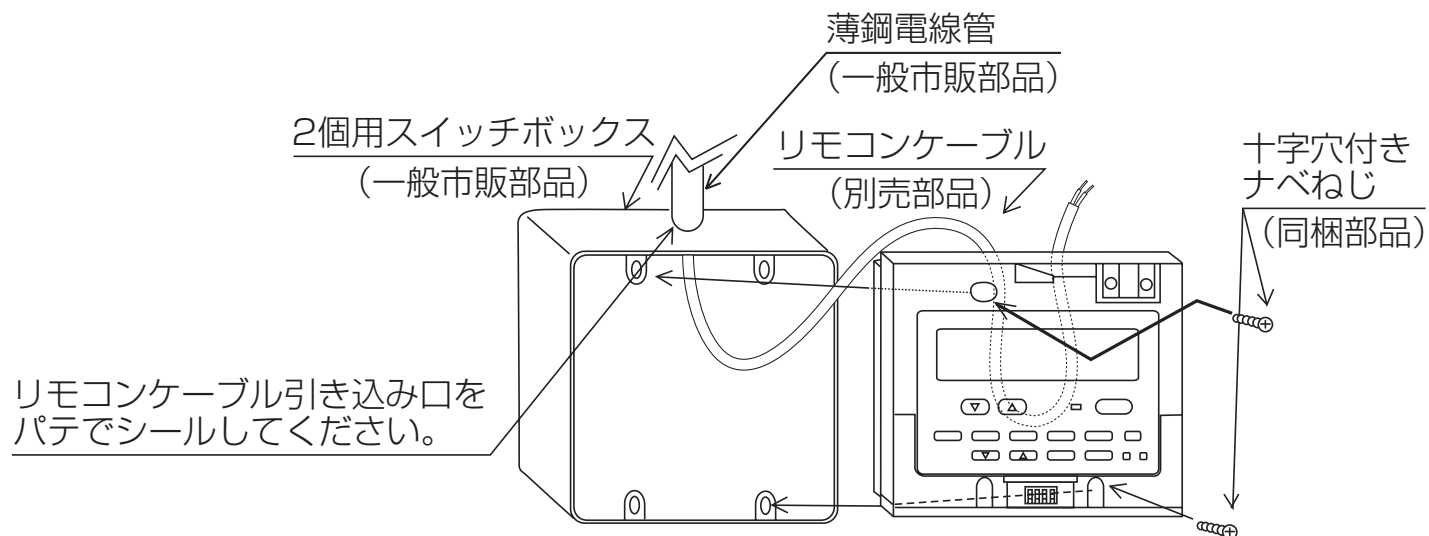
使用部品の取付位置の詳細は、「4-3. 一般市販部品の仕様」を参照してください。

4-2. 従来工事との相違

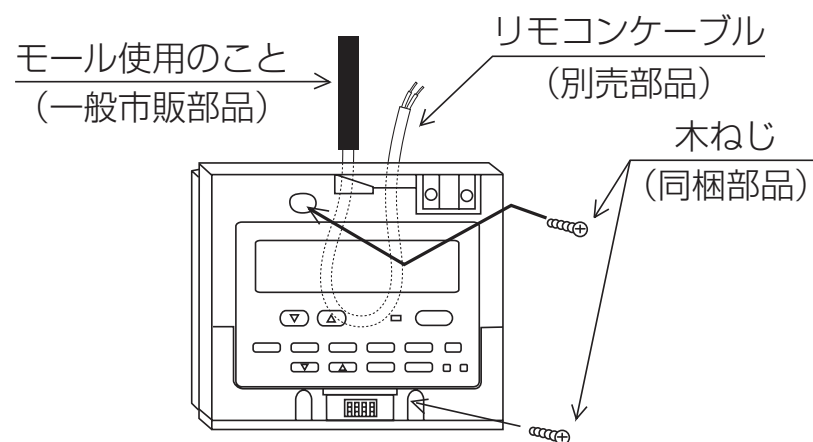
特にありません。

4-3. 一般市販部品の仕様

[1] スイッチボックスを使用する場合



[2] 壁面に直接据付ける場合



5. 据付場所の選定

⚠ 警告

油・蒸気・有機溶剤・腐食ガスの多いところ、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーを頻繁に使用するところにコントローラを据え付けないこと。

- ◆ 電気部品腐食による感電・性能低下・故障・発煙・火災のおそれあり。



使用禁止

可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏えいのおそれがあるところにコントローラを設置しないこと。

- ◆ 可燃性ガスがコントローラの周囲にたまると、火災・爆発のおそれあり。



据付禁止

⚠ 注意

コントローラは水のかかるところや高湿度で結露するところには据え付けないこと。

- ◆ ショート・漏電・感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



水ぬれ注意

コントローラの質量に耐えられるところに据え付けること。

- ◆ コントローラの落下によるけがのおそれあり。



指示を実行

5-1. 法規制・条例の遵守事項

法規制、地方条例などを遵守することを配慮して据付場所を選定してください。

5-2. 公害・環境への配慮事項

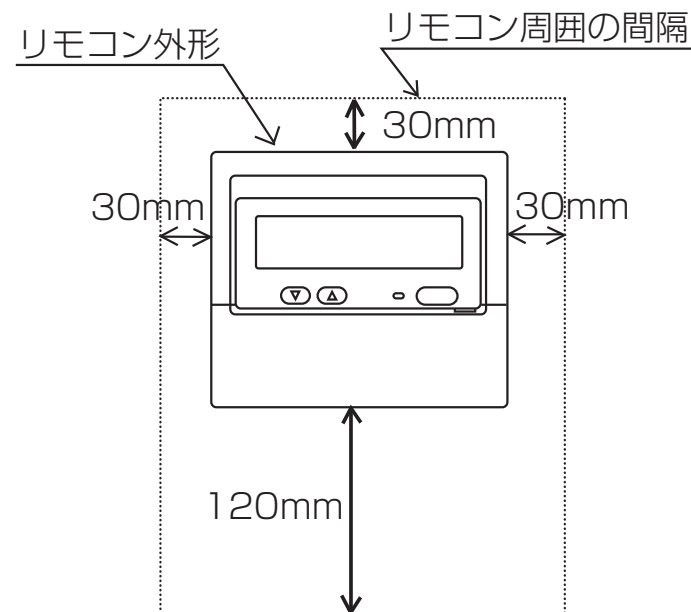
公害や環境に対し配慮して据付場所を選定してください。

5-3. 製品の機能性能を発揮するための事項

本リモコンは壁面に据付ける仕様となっています。「スイッチボックスを使用する」または「壁面に直接据付ける」が選択できます。「壁面に直接据付ける」場合、配線取り出し方法を「背面取り出し」または「上部取り出し」から選択できます。

[1] 据付スペース

リモコンをスイッチボックス・壁面のどちらに据付ける場合でも右図に示すスペースを確保してください。スペースが不足すると、リモコンを外しにくくなります。また、リモコン正面側には操作ができるスペースを確保してください。



5-4. 保守・点検に関する事項

保守・点検に関する事項を配慮して据付場所を選定してください。

工事をされた方は、顧客と保守契約を結び、本製品を含む冷蔵庫冷却システムが安全に、かつ良好な状態で運転していることを定期的に確認してください。

6. 据付工事・電気工事

⚠ 警告

改造はしないこと。

- ◆ けが・感電・火災のおそれあり。



禁止

ぬれた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作したりしないこと。

- ◆ 感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



ぬれ手禁止

電源配線は信号端子台に接続しないこと。

- ◆ 機器損傷・故障・発煙・火災のおそれあり。



接続禁止

配線に外力や張力が伝わらないようにすること。

- ◆ 伝わった場合、発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

端子接続部に配線の外力や張力が伝わらないように固定すること。

- ◆ 発熱・断線・発煙・発火・火災のおそれあり。



発火注意

コントローラのカバーを取り付けること。

- ◆ ほこり・水が入ると、感電・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電気工事は第一種電気工事士（工事条件によっては第二種電気工事士）の資格のある者が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付工事説明書に従って行うこと。電気配線には所定の配線を用い専用回路を使用すること。

- ◆ 電源回路容量不足や施工不備があると、感電・故障・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

電源配線には、電流容量などに適合した規格品の配線を使用すること。

- ◆ 漏電・発熱・発煙・発火・火災のおそれあり。



指示を実行

注意

コントローラの据付けは、販売店または専門業者が据付工事説明書に従って行うこと。

◆ 感電・火災のおそれあり。



指示を実行

6-1. 建物の工事進行度と施工内容

据付場所に据付けられる状態になりましたら、据付工事を行ってください。

[1] スイッチボックスを使用する場合

壁面仕上げ材を取り付ける前にスイッチボックスを取り付け、電線管と接合しておき、事前にケーブルを通してください。その後壁面仕上げ材を取り付けてください。

[2] 壁面に直接据付ける場合

壁面仕上げ材を取り付ける前にリモコンを取り付ける予定のところにケーブルを配線してください。その後壁面仕上げ材を取り付けてください。

6-2. 届出・報告事項

特にありません。

6-3. 据付と電気工事をする

6-3-1. 必要工具

- ・ マイナスドライバー（刃幅 4～7 mm）
- ・ ナイフ
- ・ ニッパー
- ・ その他一般工具

6-3-2. 据付準備

据付工事には「スイッチボックスを使用する場合」と「壁面に直接据付ける場合」があります。据付け方法に応じて工事を行ってください。

[1] スwitchボックスを使用する場合

⚠ 注意

配線引入口をパテでシールすること。

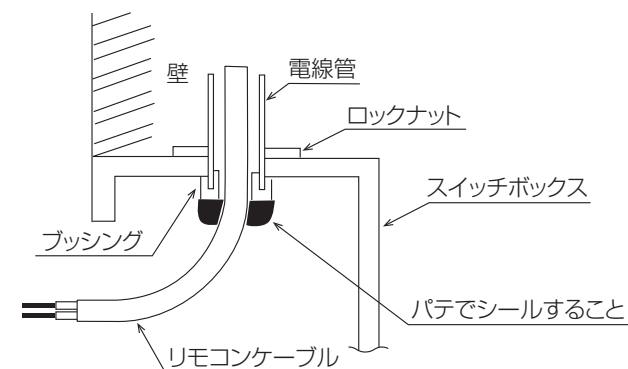
- ◆ 露・水・虫が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行

手順

1. スwitchボックスに合わせて壁面に穴をあける。
2. リモコンケーブル引入口をシールする。
スイッチボックスと電線管の結合部のリモコンケーブル引入口をパテでシールしてください。



[2] 壁面に直接据付ける場合

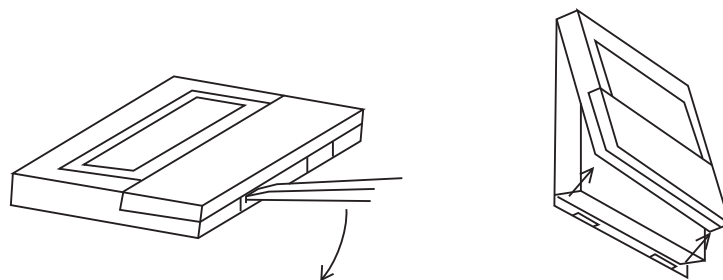
手順

1. リモコン取り付け予定位置の壁面に穴をあける。
＜壁に穴を開けリモコンケーブルを通す場合（リモコンケーブルをリモコン背面から出す場合）のみ＞

6-3-3. リモコンの準備

手順

1. リモコンカバーを外す。
刃幅 4 ～ 7mm のマイナスドライバーをリモコン下部 2 箇所のツメ部分のいずれかに差し込み、矢印で示す方向に動かします。
引っかかっているツメが外れますのでカバーを手前上に引いて取り外してください。



お願い

マイナスドライバーをコントローラのツメにはめ込んだ状態で強く回転させないでください。

◆ ケースが損傷するおそれあり。

6-3-4. リモコンケーブルの準備

⚠ 注意

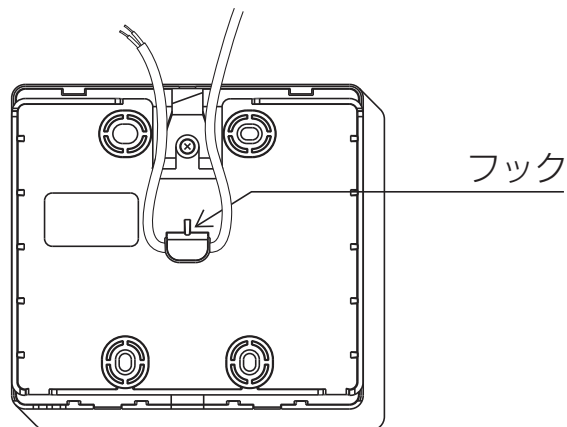
配線はフックにはめた後、端子台に固定すること。

- ◆ 固定していない場合、露・水滴がコントローラ内部に入ると、機器を損傷・故障し、漏電・感電のおそれあり。



手順

1. リモコンケーブルを本体下ケースフック部にかける。



リモコンケーブルトラップ必要長さ

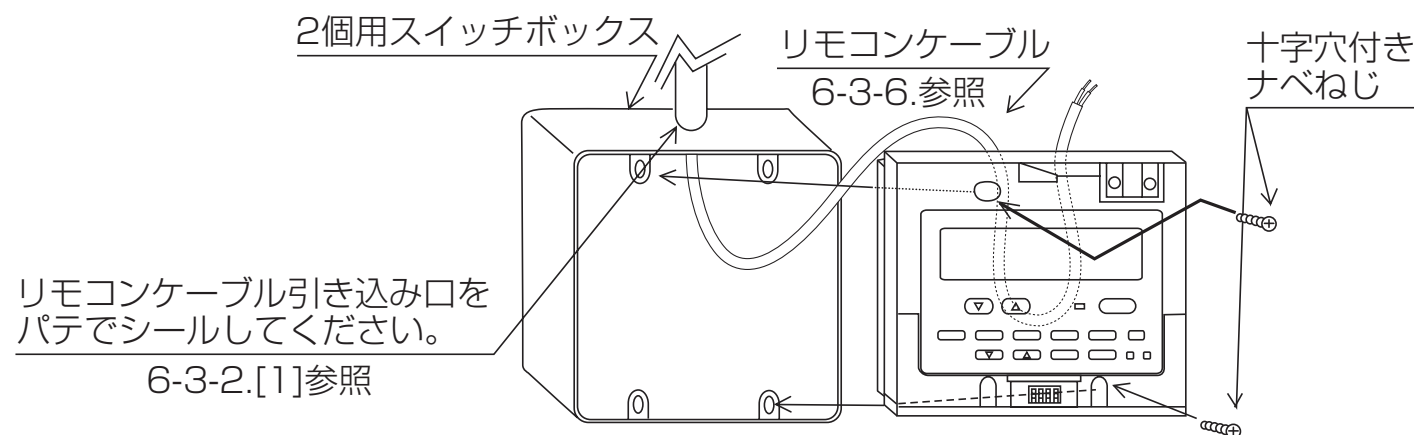
200mm

6-3-5. リモコン本体の据付け

[1] スイッチボックスを使用する場合

手順

1. リモコン本体をスイッチボックスに取り付ける。
2 か所以上固定してください。
据付け面は平らな所をお選びください。



[2] 壁面に直接据付ける場合

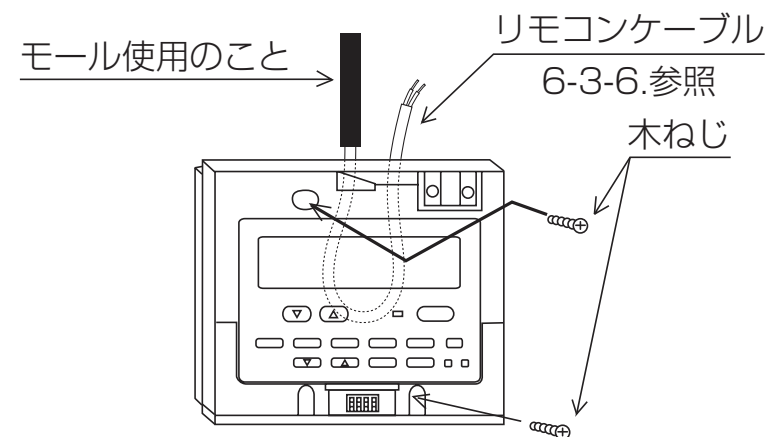
手順

1. リモコン本体を壁面に取り付ける。
2 か所以上固定してください。
壁面からリモコンが浮くことを防止するため、リモコン正面から見て左上と右下の2か所固定してください。モリーアンカーなどを使用し固定してください。
据付け面は平らな所をお選びください。

お願い

ネジを締めすぎないでください。
ネジを使用してリモコン本体を固定する場合は、0.8Nm以上のトルクで締めないでください。

◆ 下ケースの変形、割れのおそれあり。



6-3-6. リモコンケーブルの接続

⚠ 注意

コントローラの内部に配線の切くずが入らないようにすること。

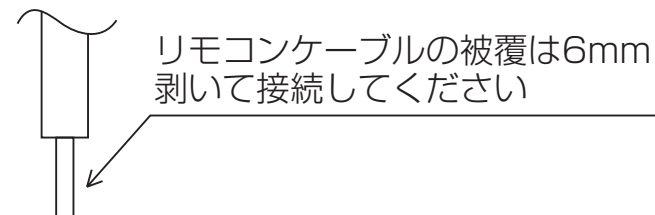
◆ ショート・感電・故障のおそれあり。



感電注意

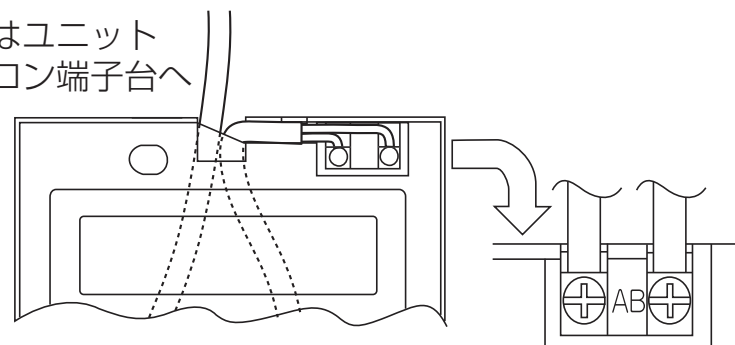
手順

1. リモコンケーブルを加工する。
2. リモコンケーブルを端子台に接続する。



室外ユニットまたはユニット
コントローラリモコン端子台へ

極性はありません



お願い

コントローラの配線を端子台に接続する際に、圧着端子を使用しないでください。

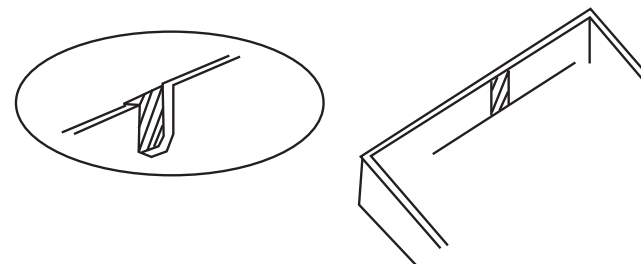
- ◆ 基板と接触し故障のおそれあり。
- ◆ カバーと接触しカバー損傷のおそれあり。

6-3-7. リモコンカバーの加工

<壁面に直接据付ける場合で、かつ壁面にリモコンケーブルをはわす場合のみ>

カバーの内側薄肉部（右図の斜線部）をナイフ・ニッパーなどで切り取ってください。

端子台に接続したリモコンケーブルをこの部分から取り出します。



6-3-8. リモコンカバーの取り付け

⚠ 注意

"パチッ"と音がするまではめ込むこと。

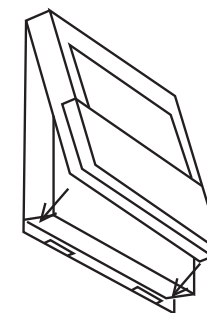
- ◆はまっていない場合、製品が落下し、けが・損傷・故障のおそれあり。



指示を実行

手順

1. 本体にカバーを取り付ける。
上部爪（2カ所）を先に掛けて、右図のように本体にはめ込みます。



6-3-9. リモコンケーブルの取り出し

⚠ 注意

配線引込口をパテでシールすること。

- ◆露・水・虫が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。

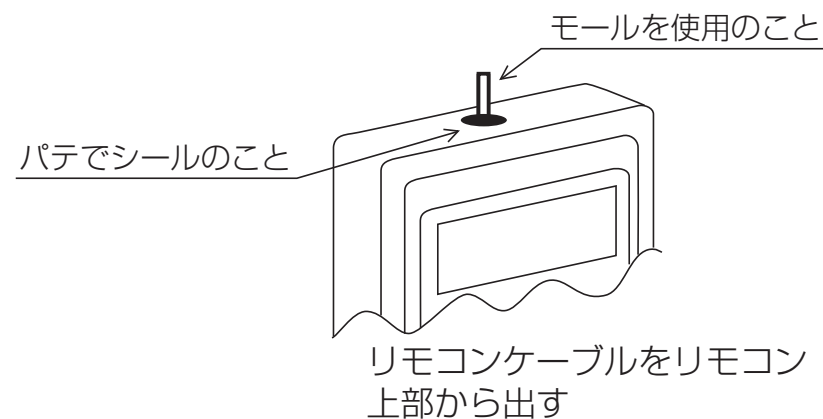


指示を実行

[1] 壁面にリモコンケーブルをはわす場合

手順

1. カバーの切り取った部分よりリモコンケーブルを取り出す。
2. カバーの切り取った部分をパテでシールする。
3. リモコンケーブルを壁面で引回す場合はモール（配線カバー）を使用する。



[2] 壁に穴を開けリモコンケーブルを通す場合

手順

1. リモコンケーブルをリモコン背面から取り出す。
2. リモコンケーブルを通した穴をパテでシールする。

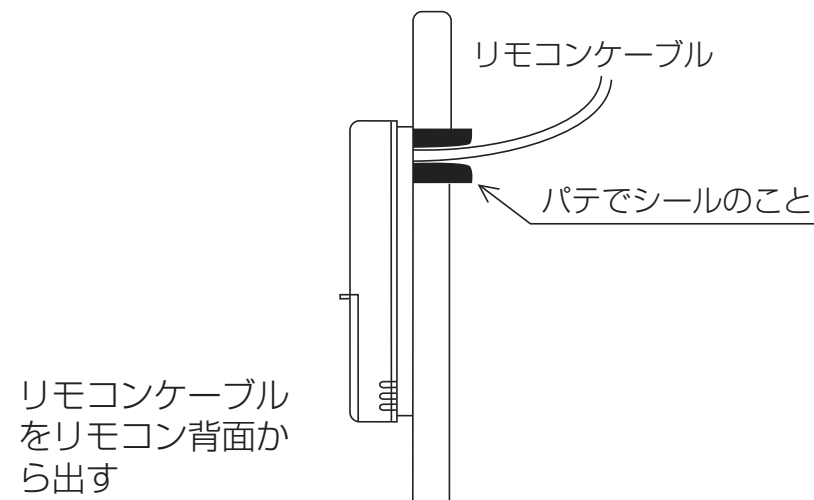
⚠ 注意

配線引込口をパテでシールすること。

- ◆ 露・水・虫が浸入すると、感電・故障・火災のおそれあり。



指示を実行



6-4. サービス

再度取り外す場合は取り付け手順を参考にして行ってください。

7. 据付工事後の確認

据付工事が完了しましたら、次項の「据付工事のチェックリスト」に従ってもう一度点検してください。
不具合がありましたら必ず直してください。（機能が発揮できないばかりか、安全性が確保できません）

7-1. 据付工事のチェックリスト

確認項目		確認結果
設置環境	設置周りは必要な空間が守られていますか。	
リモコン	リモコンケーブルの切屑などが端子台に入っていないですか。	
	リモコンケーブル引き込み口はパテ等でシールしましたか。	
	意匠カバーと上ケースに浮きがなくはめ込んでいますか。	

7-2. 保護シートの取り外し

工場出荷時、カバーの操作面に保護シートを貼っています。
ご使用前に、保護シートをはがしてください。

8. 設定値変更

この設定値変更は変更が必要な場合のみ行なってください。
 リモコンにより必要に応じてユニットコントローラの設定値の変更をします。変更は、リモコンからのみ可能です。
 下表から設定値の変更が必要な項目を選び、下表に記入後設定を行なってください。

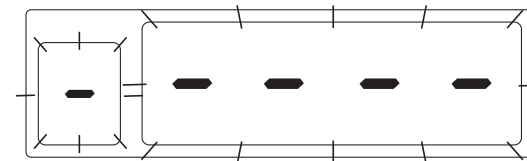
設定値変更内容

モード番号	データ名	登録 No.	記入欄	設定範囲	刻み幅	備考欄
1	庫内温度差 (K)	1		0.5 ~ 5.0	0.5	全機種共通
2	温度シフト差 (K)	1		0.0 ~ 10.0 (0.0 : 温度シフト操作無効)	0.5	
3	高温警報温度差 (K)	1		0.0 ~ 60.0 (0.0 : 高温警報無効)	0.5	
4	セットバック温度差 (K)	1		0.5 ~ 10.0 -- スケジュール運転のみ	0.5	RBH,L,R - * D * RBH,S-P ** RBH,S-N ** のみ
5	現在時刻 ※ 1	時刻	1	00:00 ~ 23:59	:01	
		年	2	00 ~ 99 (西暦下 2 桁)	1	
		月	3	1 ~ 12	1	
		日	4	1 ~ 31	1	
6	通常運転 (停止) 開始時刻	1		00:00 ~ 23:50 -- : -- 設定値なし	:10	※ 1 年月日設定できない機種ではモード 4 ~ 8 は表示され ません。
		2				
		3				
		4				
7	セットバック運転 (停止) 開始時刻	1		00:00 ~ 23:50 -- : -- 設定値なし	:10	
		2				
		3				
		4				

8	霜取開始時刻	1		00:00 ~ 23:50 --:-- 設定値なし	:10	RBH,L,R-*D* RBH,S-P** RBH,S-N** のみ ※1 年月日設定できな い機種ではモード 4~8は表示され ません。
		2				
		3				
		4				
		5				
		6				
		7				
		8				
		9				
		10				
		11				
		12				

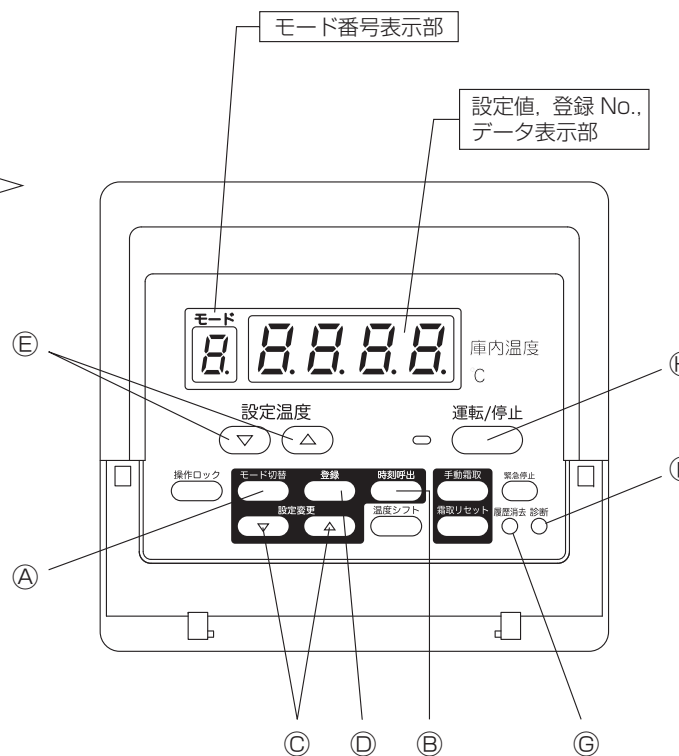
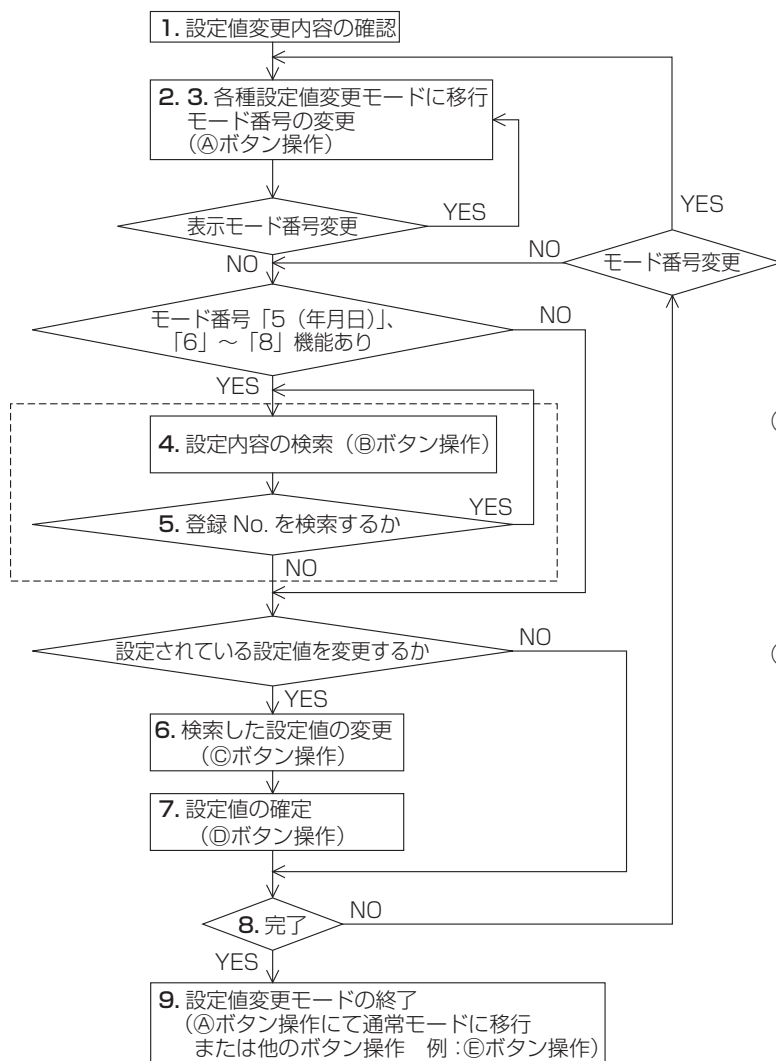
お願い

- 工事終了後、設定値変更によりユニットコントローラの設定を変更した場合は、全設定の内容を記入しておいてください。
- 操作時、以下の液晶表示をする場合は、ユニットコントローラにて手元操作禁止の設定を行なっておりますので、お買い上げの販売店または専門業者へ、相談してください。



〔設定値変更の流れ〕

まずは機能設定の流れをつかんでください。
 実際の操作については〔操作手順〕 1. ～ 9. を参照してください。



手順

1. 各種設定値の内容変更を確認する。
各種設定値変更にて設定内容を変更した場合、そのモードの設定内容が変わります。
 2. ～ 9. に従い、現在の全設定の内容を確認、ユニットコントローラの据付工事説明書のチェック欄に記入の上、設定を変更してください。なお、工場出荷時の設定についても同様にユニットコントローラの据付工事説明書を参照してください。
2. **モード切替** ④ボタンを押す。
モード番号表示部に「1」（庫内温度差）が点灯し、そのモードに設定されている値をデータ表示部に表示します。

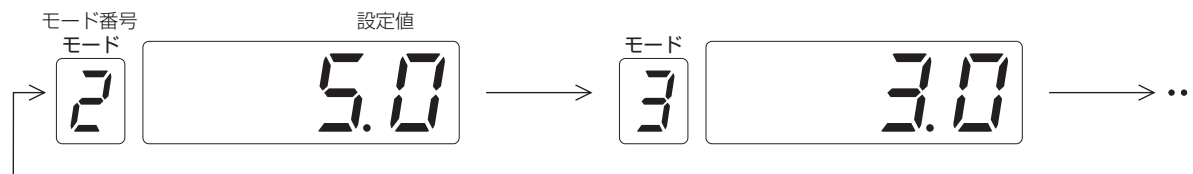


お願い

- 途中操作を間違えた場合は、3. **モード切替** ④ボタン操作または、設定温度 ∇ \triangle ⑤ボタンを押して設定値変更モードを終了し戻って再度 2. より行なってください。

3. 変更したいモード番号に変更する。

モード切替 ④ボタンを押すごとに、モード番号と庫内温度表示が
1 → 2 → 3 (→ 4 → 5 → 6 → 7 → 8) → 庫内温度表示 (通常モード) と変化しますので変更したいモード番号に合
わせます。



4. 1つのモード番号に複数のデータを登録する。

登録する項目はモード番号「6」～「8」の時刻設定にあります。

時刻呼出 ⑤ボタンを押すごとに登録 No. を表示します。



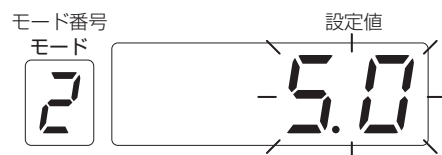
5. **時刻呼出** ⑤ボタン操作をやめる。

表示している登録 No. と表示されている設定値を交互表示します。



6. 設定値の変更を行なう。

変更したいデータに合わせ、設定 ∇ \triangle \odot ボタンを押すことにより、設定値を合わせます。
設定値の変更中は、設定値が点滅表示します。



7. 設定内容を確定する。

登録 \odot ボタンを押すと、そのモード番号（と登録 No.）に、変更した設定値を登録します。
設定完了時、モード番号表示「.」が2回点滅表示します。



8. 他の設定値変更を行なう場合は、2. ～ 7. の作業を繰り返し行なう。

9. 設定値変更を終了する。

モード切替 A ボタン操作を繰り返し庫内温度表示としてください。または、設定温度 ∇ \triangle \odot ボタンを押して設定値変更モードを終了すると、ユニットコントローラの設定値変更前の運転状態画面へ復帰します。

9. サービスメニュー

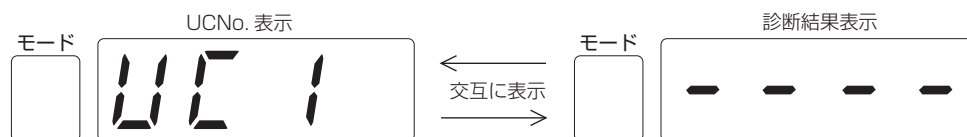
[1] 自己診断

リモコンにて各ユニットの異常履歴を検索します。

手順

1. 自己診断モードに切り換える。

(診断) ⑥ボタンを押すと、下図の表示になります。UC1 の自己診断を開始します。(UC：ユニットコントローラ)



2. 自己診断したい UCNo. を合わせる。

設定変更 ∇ \triangle ③ボタンを押すごとに UCNo. が UC1 ~ UC4 の間で、前後するので、自己診断したい UCNo. に合わせます。(UC1 の自己診断を行なう場合はこの操作は必要ありません)



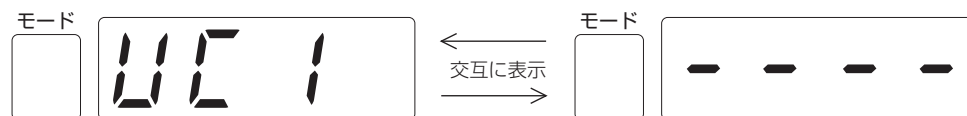
3. 診断結果表示の内容を確認する。(最新)

<異常履歴がある場合>

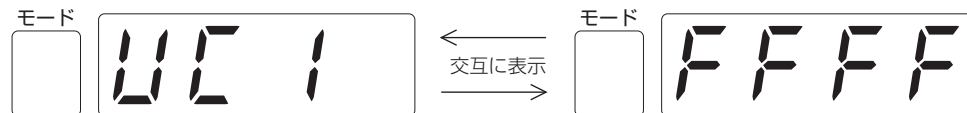
(異常コードの内容はユニットコントローラの据付工事説明書およびサービスハンドブックまたは、リモコンカバーのフタ内部シールを参照してください。)



<異常履歴がない場合>



<相手がない場合>



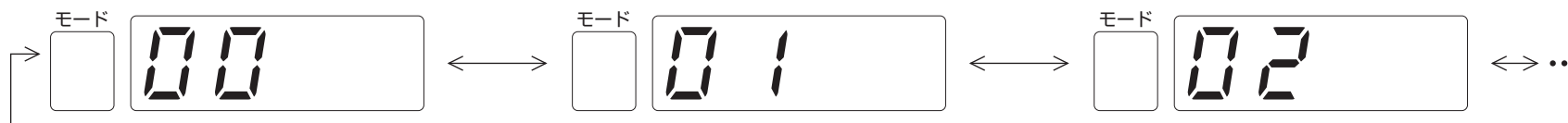
異常コード表示例

異常コード	異常内容
L0	センサ異常 (オープン)
H0	センサ異常 (ショート)
E0	外部異常 (冷却中)
E1	外部異常 (除霜中)
01	ユニットコントローラ応答なし

4. 過去の異常履歴を確認する。

過去に異常が発生していた場合、それを最大 16 個まで表示することが出来ます。設定温度 ∇ \triangle Ⓜ ボタンを押すごとに順次表示します。

設定温度 ∇ ボタンを押すごとに、「 $\rightarrow 15 \rightarrow 14 \rightarrow \dots \rightarrow 00$ 」のように表示します。逆に設定温度 \triangle ボタンを押すごとに「 $\rightarrow 00 \rightarrow 01 \rightarrow \dots \rightarrow 15$ 」のように表示します。(0 から 15 まで。0 が最新の異常履歴です。)



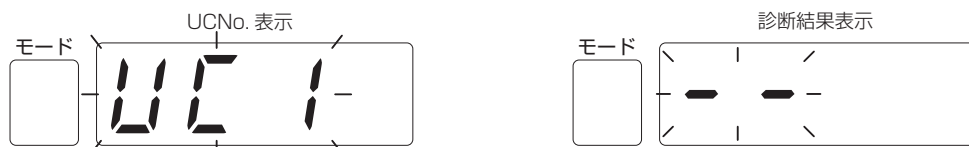
設定温度 ∇ \triangle ボタン操作をやめるとその時点での異常履歴を表示します。



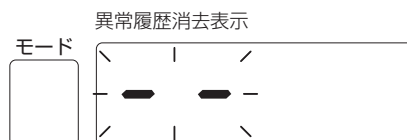
[2] 異常履歴消去

手順

1. 「[1] 自己診断の手順 3.、4.」の診断結果表示にて異常履歴を表示させる。
2. **履歴消去** ㊸ ボタンを押す。
UCNo. が点滅します。



異常履歴が消去された場合、下図の点滅表示になります。
なお、異常履歴消去に失敗した場合は、異常内容が再度表示されます。



[3] 自己診断の解除

自己診断解除には次の 2 通りがあります。

手順

1. **診断** ㊸ ボタンを押す。
→自己診断を解除し、自己診断前の状態になります。

または

手順

1. **運転/停止** ㊸ ボタンを 2 秒以上押し続ける。
→自己診断を解除して、停止となります。
(上位コントローラより手元操作禁止時、この操作は無効です。)

10. 試運転

お客様立ち会いで試運転を行なってください。

10-1. 試運転の準備

据付工事説明書に従って本ユニットの据付工事が完了しているか、また、室内ユニット、室外ユニットの据付工事が完了しているか確認してください。

10-2. 試運転の方法

接続して使用する据付工事説明書を参照してください。

11. 修理を依頼する前に

11-1. リモコン診断

リモコンから操作がきかない場合、本機能により、リモコン診断を行ってください。

手順

1. 庫内温度表示、リモコン立ち上げ中表示を確認する。

ユニットコントローラ運転停止時、リモコン立ち上げ時に正常な電圧（DC12V）が印加されていない場合は、消灯しています。表示が消灯している場合は、リモコン配線、ユニットコントローラを点検してください。



2. リモコン診断モードに移行する。

診断 ⑥ボタンを5秒以上押し続けると、下図の表示になります。



登録 ⑦ボタンを押すとリモコンの診断を開始します。



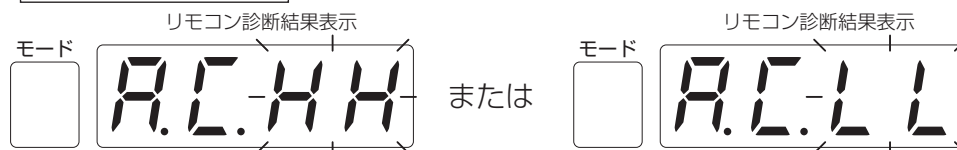
3. リモコン診断結果を確認する。
診断結果が点滅表示されます。

リモコン正常時



リモコンに問題はありませんので
他の原因を調査してください。

リモコン不良時 (異常表示 1)



リモコンの交換が必要です。

リモコン以外に問題が考えられる場合

(異常表示 2) 「E3」が点滅→送信不可



伝送線にノイズがのっている、あるいはユニットコントローラの故障が考えられます。
伝送路、他のコントローラの調査をしてください。

(異常表示 3) 「データエラー数」を表示→データエラーの発生

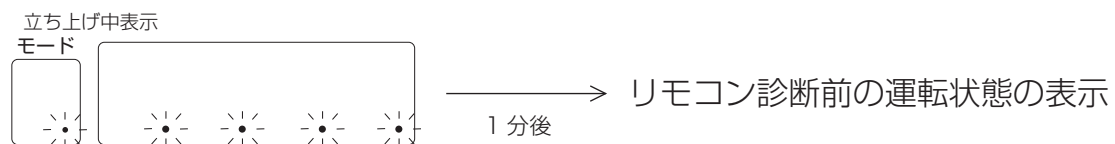
データエラー発生数最大 66 個



データエラー発生数とはリモコンの送信データのビット数と実際に伝送路に送信されたビット数の差を意味します。
この場合外来のノイズなどの影響で送信データが乱れていますので、伝送路を調査してください。

4. リモコン診断の解除を行なう。

〔診断〕 ⑥ボタンを5秒以上押すと、リモコン診断を解除し「.」、運転ランプが点滅し、約1分後、リモコン診断前の運転状態に戻ります。



12. お客様への説明

- 接続して使用する取扱説明書に従って、お使いになる方に正しい使い方をご説明ください。
- お使いになる方が不在の場合は、オーナー様・ゼネコン関係者様や建物の管理人様にご説明ください。
- 「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。
- この据付工事説明書は、据付け後、お使いになる方にお渡しください。
- お使いになる方が代わる場合、この据付工事説明書を新しくお使いになる方にお渡しください。

13. 法令関連の表示

- 本製品を含む冷蔵庫冷却システムは長期間の使用に伴い、製品を構成する部品に生ずる経年劣化などにより、安全上、支障が生じたり、本来の性能が発揮できないおそれがあります。冷蔵庫冷却システムを良好な状態で長く安心してご利用していただくために、販売会社または認定技術者と保守契約することで、技術者がお客様に代わって定期的に点検いたします。万一の故障時も早期に発見し、適切な処置を行います。
- 標準的な使用環境と異なる環境で使用された場合や、経年劣化を進める事情が存在する場合には、設計使用期間よりも早期に安全上支障をきたすおそれがあります。

13-1. 日常の保守

13-1-1. カバーの清掃

中性洗剤を柔らかな布に含ませて拭き、最後に乾いた布で洗剤が残らないように拭き取ります。ベンジン・シンナー・磨き粉の使用は避けてください。

13-2. 点検時の交換部品と保有期間

<参考> 主要部品の交換周期

主要部品名	交換目安周期
リモコン	10年

※ 本表は主要部品を示します。詳細は保守点検契約に基づいて確認してください。

※ 交換周期は保証期間とは異なります。

※ この保全周期は、製品を長く安心してご使用いただくために、保全行為が生じるまでの目安期間を示していますので、適切な保全設計（保守点検費用の予算化）のためにお役立てください。



ご不明な点がございましたらお客様相談窓口にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)

三菱電機株式会社

冷熱システム製作所 〒640-8686 和歌山市手平6-5-66